

令和3年度 日本大学藤沢高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」に則り、校訓として「健康」「有為」「品格」を掲げ、付属校の特性を生かして中学・高校・大学の10か年教育の展望とゆとりをもって、心身ともにバランスのとれた豊かな人間形成と国際的素養の育成を目指す。

【本校の特長及び課題】

具体的な教育目標は、基礎学力の向上、社会性の育成、教科外活動の奨励であり、進路に関しては、日本大学はもちろん、日本大学以外の難関私立大学や国公立大学も視野に入れた教育も行う。今後の課題として、併設中学校及び高校1年次からの特別進学クラス設置に伴い、進学実績の更なる向上が挙げられる。

令和3年度 of 取組結果

【概況】

魅力的な学校紹介を行う広報活動により、本校への志願者を増やし、経営安定な入学者数を確保できた。充実したカリキュラムにより基礎学力を向上させ、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートした。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し、実践できる生徒の育成に尽力した。以上の事を念頭に置きそれぞれの部門で目標達成に向かって様々な取組を行った。さらに、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施した。

教育活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|--------------------------------|---|------|
| 「新学習指導要領」、 「高大接続改革」への 対応 | <p>【新学習指導要領関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学は2021年度から完全実施である。観点点が3つに変更されたことに対して、昨年度中に案を作成・提案した。その承認された内容どおりに、2019年度・2020年度の評価も換算し直し、既に作業は終了している。 ・ 高校の新教育課程表については、県の私学振興課と連絡を取り本校の課程表に問題がないかどうか確認。現在は学則変更の事項として提出済みである。観点別評価については、グラウンドデザイン・ルーブリックの原案を作成し、3学期に試行実施中である。指導要録に関しては、枠組みをほぼ作成完了し、現在最終確認中、来年度から開始できる予定である。研修についてはコロナウイルス感染症の影響により外部研修がほとんど中止になってしまった。 ・ 高校の総合的な探究の時間の学習内容については、高校1年生のLHRを利用して先行して試行実施中。外部業者のサポートを受けて年間実施表を作成したが、コロナウイルス感染症拡大に伴い、グループ学習の中止や行事変更に伴う実施内容の変更、オンライン授業実施による変更など大幅な変更を余儀なくされた。 <p>【高大接続改革】</p> <p>高大連携教育は昨年度にコロナウイルス感染症の影響で実施できなかったため、今年度は日本大学の関係各学部と協力を得て9月下旬にオンラインでの実施（SDGsの内容も含む学部あり）を予定していた。しかし、感染状況を鑑みて今年度も中止となった。昨年度同様、少しでも日本大学や学部学科の様子を知ってもらう機会を維持するために、各学部の御協力を仰ぎ、7学部から学部紹介動画や資料などを用意してもらった。生徒に放映または閲覧させ、進路に関する自分の</p> | A |

| | | |
|------------------|---|---|
| | 意見等を書かせた。また令和4年度には高大連携教育を実施したいと考えているため、各学部に依頼文を送付した。 | |
| 公正な進級判定 | 学校自己点検・評価Q1-4「適正な指導のもとに成績を評価し、公正な進級判定ができていないか」について、日本大学全体の平均値よりも0.52（昨年度0.33）低かった。今年度4月1日付けで教員執務必携の内規を改訂した。その結果を学年末に確認したい。また、コロナ禍で欠席と出席停止の線引きの難しさを痛感している。 | B |
| I C T（情報通信技術）の活用 | 学校自己点検・評価Q1-8「I C T（情報通信技術）を活用した教育活動に向けた取組をしているか」について、日本大学全体の平均値よりも0.28（昨年度0.21）低かった。生徒全員にタブレット購入してもらい、授業での活用は広がりつつある。導入時期についても9月から4月へと前倒しした。 | B |

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-------------|--|------|
| いじめ防止のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> いじめ対策として、日本大学におけるいじめ防止対策リーフレット（教員用・家庭用）を活用し、いじめの早期発見及び防止活動に尽力している。 いじめについては、定期的な個人面談の実施のほかに、高校で1回（10月実施）・中学校で2回（7月・10月）「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、その結果を踏まえ、迅速に細かな対応をした。 いじめの情報をキャッチしたら、対応チームを編成し組織として対応している。いじめ対応チームは、校長、高校教頭、中学教頭、生活指導主任、学年主任、学級担任等で構成する。但し、校長が必要に応じて、部活動顧問、養護教諭等を加えている。 いじめ防止のための研修会に積極的に参加し、情報を共有している。 重大事態が発生した場合は、直ちに関係機関に報告している。学校が調査を行う場合は、「日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校いじめ防止基本方針」に基づきいじめ対応チームを中心に、被害生徒・保護者の思いを踏まえるとともに、調査の公平性・中立性の確保に努め、事実関係を明確にしている。 | A |
| 基本的な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 全教員で共通認識を持ち、基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。 遅刻や身だしなみについてはこまめに声掛けをした。 | A |
| S N S問題への対応 | <ul style="list-style-type: none"> S N S上での問題の大きさを理解させ、防止に努めた。 中学・高校共に1年次に生徒・保護者それぞれに対応した「サイバー犯罪防止教室」を継続実施した。 S N S上での諸問題について様々な情報や防止対策を配信した。 | B |

課外活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-------------------|---|------|
| 生徒による自主的な生徒会活動の推進 | 生徒会の運営や学校行事等の立案・計画・運営等が生徒の自主性によってなされ、生徒会会員生徒の生活が充実したものとなるように貢献している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため日本大学「NU祭」や日本大学体育大会が中止となり、付属高校での交流を深める行事を実施できなかった。 | B |
| 生徒会活動への理解 | 学校行事、生徒会各委員会実施などにより生徒会活動への理解を得ている。生徒総会において生徒会の活動報告や委員会活動の報告を行っている。また各学期の | A |

| | | |
|--------|--|---|
| | 始業式、終業式において生徒会タイムで活躍した部活動の表彰や関東大会以上に出場する部活動の壮行会を行っている。 | |
| 部活動の取組 | 複数の部活動で全国的な活躍（水泳部、ウエイトリフティング部）や関東大会進出があった。 | A |

進路指導

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|---------------------|--|------|
| 日本大学への進学者数増加に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・学祖山田顕義先生と日本大学及び日本大学藤沢中学校高等学校の成り立ちについて、日本大学企画広報部広報課より資料を提供していただき、中学1年生と高校1年生を対象に講演会（動画放映）を行った。これによって日本大学や自校に対する愛校心や帰属意識の高揚を目指した。 ・高校1～3年生に日本大学進学ガイドを配布、進路指導室内に日本大学専用の書棚を設けて学部案内、受験報告書（卒業生からのアドバイス）等を並べているほか、廊下にも日本大学の情報を掲示、資料は持ち帰り自由として書棚に並べている。 ・日本大学各学部説明会を、6月に実施し、高校2、3年生が各自の希望する学部の説明会に参加した。また、説明会の様子を動画撮影し、保護者に配信を行った。 ・高校3年生を対象として7月に学年集会を設け、日本大学への付属推薦入試の具体的な手順や対策を伝え、日本大学への進学対策である講習への参加を促した。 ・日本大学個別進学相談会を、第1学期末の三者面談の時期に合わせて高校1～3年生の保護者、生徒を対象として実施し、それぞれの興味、関心に合わせた進学相談を行った。 ・進路指導室内に日本大学統一テスト、基礎学力到達度テスト及びその模擬試験問題、対策問題集を保管して、専任、非常勤問わず教員に開放し、試験対策に役立てている。 ・付属特別選抜の校内選考を基礎学力選抜のセレクション後に実施することで、生徒が一番に希望する学部への入学を増やし、入学後のミスマッチを減少させている。 ・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への付属推薦合格者は約42%となっている。 | B |
| 国公立大学、難関私大進学者に対する指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校1～3年生で各学年に対応した進路ガイダンス、二者面談、長期休暇前の三者面談を通して進学への意識を高め、長期休暇ではオンラインを含むオープンキャンパスへの参加を奨励した。 ・高校1～3年生で受験ガイダンスを実施し、予備校や塾の担当者による各学年に合わせた講演会や動画配信を行った。 ・高校1～2年生の特進クラスを対象に難関国公立大学の学生とワークショップを実施し、生徒の進学に対する興味や関心を喚起した。 ・高校3年生の一般選抜希望者を対象に、塾講師による特別演習を実施し、大学入学共通テスト予想問題集の希望者販売も行った。 ・高校3年生の一般選抜希望者を対象に、大学入学共通テストのプレテストを行い、校内成績を算出するなどして、学力向上に努めた。 | B |

| | | |
|--|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学、難関私大学の古い赤本を保管、陳列することとし、書店で購入できないことから高校3年生を中心に利用している。 | |
|--|---|--|

保健衛生

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|----------------------|---|------|
| 健康診断の適切な実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの関係で5月から9月に移した上で中高全学年の健康診断を実施した。実施に当たり全教職員の協力が得られ、生徒の健康状態を把握することができた。 ・結果の返却により、生徒自身も健康状態を把握できた。 | A |
| AED及びアレルギーに関する研修会の実施 | 5月～6月に教職員対象のAED研修会をオンデマンドで実施。同時にアレルギーについて研修(エピペンの使用方法やアナフィラキシー症状について)もオンデマンドで実施。 | A |
| 事故発生状況の報告 | 事故発生時の状況を迅速に報告し、関係部署が状況を確実に把握することができた。 | A |
| 感染症対策 | 毎日の検温、手洗い、教室の換気を奨励し、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染防止に努めた。 | A |

図書

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-----------------|--|------|
| 委員会活動及び読書指導の活発化 | <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年まで、生徒主体で「カウンター」、「管理」及び「広報」の3つの班に分け、実施していたが、新型コロナ感染症の対策で教員、司書2名で「カウンター」及び「管理」を実施し、感染予防を徹底して、図書室を運営している。 ・ClassiやNFオンラインを利用して、開室スケジュールや新着案内などを知らせることで生徒達によりよく情報が伝わるようになった。 ・状況に合わせて、図書委員の生徒活動の「広報」として動画で本の紹介する班と「図書だより」で本を紹介する班と分けて実施している。 | B |
| 図書室の改革 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策で手指アルコール消毒の徹底、テーブルや椅子の間隔を空けソーシャルディスタンスを保ち、感染予防に徹しながら運営を実施している。昨年度より増設したテーブルについては、パーティションで区切り、生徒が安心して利用できるように対応している。教員と司書で予防対策、本の消毒管理などを徹底しているため、生徒から安心して通えると好評である。 ・各教科による推薦の参考書・大学赤本を多数購入した。 | A |

広報

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-------|--|------|
| 本校のPR | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の魅力をHPで発信するとともに、受験生・保護者が閲覧しやすいように改善をした。SNSを活用した情報発信をした。 ・感染対策を実施しつつ、説明会・相談会のイベントを実施した。また外部イベントにも積極的に参加した。結果を昨年と比較すると、学校案内で1万部、来場者数で5千人ほど多くなっている。昨年在コロナ禍で、ほぼ全てのイベント等が中止となっていたので、今年は徐々に戻りつつある。 ・Webを活用した説明会やイベントの録画を配信した。 | A |

| | | |
|--------|--|---|
| 生徒募集活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志望者数の確保を目指している。 ・中学入試では新規で午後入試を導入した。 ・中高ともに塾訪問を実施し、約70塾に説明をした。 | A |
|--------|--|---|

管理運営

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|------------------------|--|------|
| 会議・委員会の活発化 | 各々の責任者が校務分掌や各種委員会をはじめ、教職員会議や校務運営委員会において、活発で前向き意見交換を行い、教育内容の充実及び受験生の増加や進学実績の向上が図れるように管理職が指示をした。 | A |
| 生徒による学級経営に関する評価アンケート実施 | 「生徒による学級経営に関する評価アンケート」の実施目的は、ホームルーム活動での様々な項目の指導が的確に行われ、クラス間で差が出ることによって生徒の不利益が起きないことを目的としている。また、教育目標（校訓や三つの指針）が高いレベルで達成されるための指標となるものにしたいと考えて実施している。 | A |
| 安定した生徒募集 | 令和2年度高校入試の際の内申基準を変更した効果が令和4年度も続き、コロナ禍においても説明会や見学会での様々な工夫と努力を行うことで、生徒募集において出願数を伸ばすことができた。 | A |

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

| |
|---|
| <p>【オンライン授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月及び1月28日から2月現在、オンライン授業を実施。生徒は自分のタブレットを用いて自宅から参加。教員は学校で授業を実施。Wi-Fi等の環境がなく自宅での参加が難しい生徒には、学校に登校して大教室での参加を可能とした。 ・欠席等の連絡は保護者がClassiで連絡、朝と帰りのホームルームで担任が出席状況を確認した。 ・週1回程度の登校日を設定し、授業の課題の配布、その他連絡を行った。登校に際しては分散登校を実施。 ・今後の課題としては、自宅にオンライン授業を実施できる環境がない等の理由で学校に登校している生徒への対応が挙げられる。学校からの貸し出しも検討する必要があるが、対象人数が多い場合など予想される問題への対処を考えておく必要がある。 <p>【学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの行事が変更・中止された。そのたびに年間行事予定表を出し直した。中止となった主な行事は、4月新入生歓迎会、校外学習、5月授業参観、7月水泳大会、9月高大連携教育、10月修学旅行、小学生との交流会、職業学習、職業体験、11月授業参観、1月マラソン大会など多数にわたる。 ・その中で生徒会行事については4月の新入生歓迎会を放送にて行い、部活動の紹介などを行った。6月の文化祭（日藤祭）については新型コロナ感染防止対策を徹底した上で、生徒のみで実施した。全校生徒を午前・午後と4つ分散し2日間で実施した。新型コロナ感染症対策として、事前にGoogleフォームで公演予約を取り、人数制限を設けた形で各公演の発表を実施した。またオンライン形式で動画発表も実施し、学校ホームページ上にリンクを貼り、多くの視聴があった。例年とは異なる形式で生徒同士のみならず外部に対しても、良い学校PRにつながっている。7月の水泳球技大会は中止し、スポーツレクリエーション大会を実施した。11月の体育祭は種目を見直し、参加人数を分散させるため全体を4つのグループに分けて2日間で実施した。 ・高校推薦入試は、健康観察票の提出、検温器設置、面接官と受験生との間にボード設置などの対応を行った。また、中学入試は、健康観察票の提出、検温器設置、1会場での受験人数を通常の50%に制限するなどの対応を行った。 |
|---|

- ・今後実施予定の高校一般入試，新入生説明会，卒業式においても座席間隔の確保，検温，消毒，出席・参列等の人数制限などの対策を講じる。

【感染症対策について】

- ・毎朝の検温・体調チェック表を全生徒及び全教職員に配布し，各自健康観察を実施した。12月以降は検温器を購入して昇降口に設置し，学校でも登校時に検温を実施している。体温が高い者や体調が悪い者には，養護教諭が改めて検温と体調確認を行った。
- ・マスクの着用，手洗いの励行，ソーシャルディスタンスの確保，教室の換気については継続的に指導。また，昼食時のいわゆる「黙食」指導を徹底するため，昼休みの教員による巡回を行った。マスクは，9月以降は不織布マスクの着用を徹底した。
- ・校舎の入り口，教室内にアルコールの消毒液，また手洗い（洗面所）には薬用石鹸を配備した。
- ・放課後の清掃後にはアルコールを用いて机・椅子・ドアの把手などの消毒を毎日行った。
- ・日々状況が変化する中で，校医・学校薬剤師から最新の意見・情報を取り入れ，その都度対応策を講じた。

【部活動について】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドラインを策定し，分散登校やオンライン授業時には生徒の状況に合わせた段階的な部活動の実施や，活動時間及び週当たりの活動回数を決めて活動している。

その他として，進路指導関連の説明会や講演会，生徒募集関連の学校説明会や入試説明会については，人数を制限し前年度同様に回数を多くして実施をした。

今後の課題は，生徒の学習活動をはじめ教科外活動に対して，感染対策を考慮しながら生徒の活動を止めることなく，教職員が創意工夫して取り組めるかが，今後の本校の更なる成長と考えている。

令和4年度の取組目標及び方策

教育活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|------------------------|--|---|
| 「新学習指導要領」，「高大接続改革」への対応 | <p>【新学習指導要領】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドデザイン，ループリックなど新たに始まる観点別評価に関連する書式を用意する。 ・年度進行のため，まずは高校1年生での実施状況を都度確認する。次の年度の高校1年生時には修正した方が良いかどうか見極める。 <p>【高大接続改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症の影響も考慮しつつ，実現可能な方策を探る。SDGsの導入などの新しい学びの導入も更に検討する。 | <p>4月中に新書式を用意する。</p> <p>学期ごとの学習指導委員会で各教科から報告してもらう。</p> <p>4月に各学部へ高大連携教育の依頼を出す。承諾していただいた後，各学部の担当者を決めて個別に内容を検討する。</p> |
| 公正な進級判定 | <p>内規改訂を実施したため，学年末にその結果を見極める。</p> <p>2022年度より夏季休暇中の補習日程延長を提案し教職員会議で承認された。夏季休暇中に実施する。</p> | <p>学習指導委員会にて各教科からの意見を集約する。</p> <p>8月中旬～下旬に実施。</p> |
| ICT（情報通信技術）の活用 | <p>公開授業においてICTを活用した授業を実施してもらう。</p> <p>研修会の案内し，これまで参加していない教員の参加を促す。</p> | <p>4月に教科主任に依頼する。</p> <p>案内が届くたびにClassiで配信する。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>様々な実践例を紹介する。</p> <p>オンライン授業の準備を依頼する。</p> | <p>N Fサーバーに実践例をまとめる。</p> <p>4月以降いつでもオンライン授業に移行できるように準備を促す。</p> |
|--|---|--|

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-------------|---|---|
| いじめ防止のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに教職員・生徒・保護者に対して、学校の取組と姿勢について周知する。適宜、ホームルームを通じて注意喚起を行う。 ・定期的な個人面談を実施し、いじめの兆候の把握に努める。 ・いじめアンケート調査(6月・10月)を実施し、いじめの兆候の把握に努める。 ・インターネット上(SNS)でのいじめ防止について「サイバー犯罪防止教室(生徒及び保護者対象)」の実施時に具体的な事例を紹介してもらい、注意喚起を行う。 ・部活動も含め、保護者からの相談に対しては、事実関係を早期に確認し、初期対応の遅れがないように教員間の連携を強化する。複数での対応を遵守し、組織的な対応の徹底を図り、詳細に聞き取り内容の記録を残す。 ・スクールカウンセラー、学級担任との情報共有や連携を図る。必要に応じて、警察等の専門機関へ報告・相談を行い、情報を共有する。 ・年度初めに「日本大学はいじめを絶対に許しません(教職員用)」リーフレットを活用し、いじめ防止対策への取組の周知徹底を図る。 ・保護者会において、同様のリーフレット(保護者用)を配布し、家庭への啓もうを強化する。ささいな情報でも軽視せず問題発生の兆候がないか、保護者への確認を取り、家庭との連携の下、学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明する。 ・スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施している。必要に応じて、学級担任や保護者に対しても同様に情報共有を行う。 | <p>4月</p> <p>各学期1回以上</p> <p>6月・10月</p> <p>5月</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>4月</p> <p>4月</p> <p>年2回</p> |
| 生活指導の共通認識 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通認識を持って生徒全員もしくは一人ひとりの対応と指導を行うこと。 ・生徒指導には教員個人で対応するのではなく、チームで対応する。 ・教職員の情報共有と連携を徹底する。 | <p>通年</p> |

| | | |
|---------|---|--------------|
| 防災意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を年2回（火災・地震）実施する。 ・教職員防災訓練研修を実施する。 | 5月・11月 3月 |
|---------|---|--------------|

課外活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-------------------|---|--|
| 生徒による自主的な生徒会活動の推進 | 生徒による生徒会行事等の計画・立案・運営など積極的に取り組める体制をつくり、生徒の意見が反映できる活動を行う。各行事終了後にアンケートをとり、次年度の活動に活用する。 | 年間を通して委員会活動を活発に行い、学校行事の見直しや部活動の活発化に取り組む。各行事終了後に classi にて生徒アンケートをとる。 |

進路指導

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|------------------------------|--|--|
| 日本大学への進学者数増加に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・学祖山田顕義先生と日本大学、自校について学ばせ、愛校心を養うとともに日本大学への関心を深めさせる。 ・高校1～3年生の各学年に応じて付属推薦入試制度を説明し、合わせて日本大学の魅力を伝える。 ・高校2，3年生では学部説明会を実施し、各学部の内容を知らせ、進学意識を高める。 ・オープンキャンパスなど日本大学に関する情報を積極的に連絡（配信）し、生徒が日本大学各学部へ足を運ぶ機会を設け、その魅力を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス，講演会 ・日本大学進学ガイドの配布 ・日本大学各学部説明会 ・日本大学個別進学相談会 ・日本大学生物資源科学部学科説明会，見学会 ・日本大学生物資源科学部学生との交流会 ・オープンキャンパス参加奨励 ・進路指導室内の資料の充実 ・日本大学各学部の情報配信 |
| 日本大学進学奨励と、国公立大学、難関私大学進学者への指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学では基礎学力向上のため、日々の学習時間を確保させる。 ・中学では職業学習や職業体験などを通して、職業観を育成し、進路意識を伸長させる。 ・高校では進学のための学力向上と、進路観育成のため説明会や講演会を実施する。 ・高校3年生では模試やガイダンスなど大学受験のための環境作りをする。 | <p>《中学》 進路講演会，面談，実力テスト，職業体験</p> <p>《高校》 進路動向調査，面談，オープンキャンパス参加推奨，進路説明会，外部模試受験奨励</p> |

保健衛生

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|---------------------------------|--|-------------------------|
| 生徒の健康状態の把握 教職員の保健衛生に関する意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学年健康診断を実施し、健康状態を把握する。 ・全教職員対象にAED・エピペン研修会を実施する。 | 健康診断：5月 教職員対象の研修会：5月 |
| 感染症拡大防止， 事故防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用，手洗い等呼びかけ，感染症予防に努める。 ・生徒保健委員による感染症や熱中症，食中毒等に対する予防ポスターの作成，掲示を行う。 ・保健室から『ほけんだより』を発行する。 | 年間を通じて実施 |

| | | |
|--|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法施行規則に従い，出席停止期間を厳守するよう呼び掛ける。 ・事故報告書と感染症罹患届の提出の徹底を図り，状況把握に努める。 | |
|--|---|--|

図書

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|---------------------------|---|---------------|
| 図書委員を主体とする委員会活動及び広報活動の活発化 | 図書委員を中心とした委員会活動を積極的に実施していく。読書会やビブリオバトル等，見ている人へ伝える力（プレゼンテーション能力）を磨く場として，中学生・高校生とそれぞれの年代に合った方法で構成・指導していく。 | 令和4年4月～令和5年3月 |

広報

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|--------|---|---|
| 本校PR | <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内・中学校リーフレットを改善し本校の教育目標や魅力を伝えていく。 ・学校説明会はWebを併用して実施し，受験生・保護者に本校の良さを伝えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校リーフレット4月発行 ・学校案内5月発行 ・学校説明会 随時 |
| 生徒募集活動 | 引き続き全教職員で説明会・相談会に対応し，安定的な志願者の確保と，受験生の学力層の向上を図る。学内で実施する説明会等は本校の生徒も参加してもらい，質の良さを受験生・保護者に実感してもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月中学校学校説明会 ・6月中学校学校見学会 ・6月中学校塾対象説明会 ・7，8月オープンスクール／校舎内見学ツアー ・9月 中高塾訪問／高校塾対象説明会 ・10，11月中高入試説明会 ・3月中学校入試報告会 |

管理運営

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|----------|---|----------------|
| 計画的な教員採用 | 退職教員の補充については，計画的に行われている。また，産休・育休・時短に対する担任補充は常勤講師の採用でまかなう。 | 4月採用で対応する。 |
| 新体育館の建設 | 部室棟として利用していた1・2号館の解体跡地に，新体育館の建設計画を行う。 | 令和3年度より検討している。 |

中長期的目標の取組結果

教育活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-------------|--|------|
| AL／ICT教育の推進 | <p>全学年においてタブレットパソコン導入済となった。</p> <p>プロジェクター・スクリーンの設置教室の増加は検討中。</p> <p>2021年度の研究・公開授業において，ICTを活用した内容を実施。</p> | B |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>I C T授業の実践例等の研修会も随時案内した。</p> <p>L H Rの時間を活用して、高校1年生に総合的な探究の時間の年間計画に基づいた授業を行い、I C Tを用いたプレゼンテーションを行う予定だったが、コロナウイルス感染症の影響で回数は減少した。2学期までに1回発表を実施した。</p> <p>学年進行の形でI C Tを用いたプレゼンテーションを経験していくことは継続中。</p> | |
|--|---|--|

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|--------------------|---|------|
| いじめや暴力・体罰のない学校を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見逃さないように生徒の様子に注意を配る。 ・いのちの大切さを学ぶ教室などの講演会を実施し、啓発教育を行っている。 ・個人面談やアンケートを行い、いじめの兆候や人間関係について情報を共有している。 ・何かあったら信頼できる大人（教員）や友人に話せる環境を作り、相談できる体制を整える。 | A |
| 発達障害について学ぶ | 外部の研修会に参加し、情報を共有している。発達障害により困っている生徒に対し、全教職員が的確な対応ができるようにする。 | A |

課外活動（生徒会）

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-------------------|---|------|
| 生徒による自主的な生徒会活動の推進 | 生徒を中心に関係教員と協力して学校行事を早期から準備し、各クラス、委員会、部活動の協力を得て実施することができている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため日本大学「NU祭」、日本大学体育大会等が中止となり、付属学校間の生徒交流を深める行事の実施がなかった。 | B |
| 生徒会活動への理解 | 生徒総会の実施や各委員会の実施、情報発信のための掲示、放送等による連絡事項の徹底などにより理解を求めることができた。部活動の活躍を各学期始業式や終業式後の生徒会タイムなどで紹介した。 | A |

進路指導部

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|---------------|---|------|
| 日本大学進学希望生徒の指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校2、3年生の生徒を対象に、日本大学各学部説明会を行い、希望する各学部の理解を深めた。 ・高校1～3年生の希望する生徒、保護者を対象に日本大学個別進学相談会を行い、各学部学科への理解を深めた。 ・ホームページの動画紹介やパンフレットの配布などを通して、興味や関心が持てるよう指導を行った。 ・日本大学進学ガイドを高校1～3年生に配布、進路指導室内には日本大学専用の書棚を設けて閲覧自由とし、多くの生徒や保護者が進路指導室を利用した。 ・高校3年生では1学期中に二者面談、三者面談、8月下旬に付属特別選抜に関する面談、10月上旬に基礎学力選抜及び国公立併願に関する面談を実施し、その都度、意向を確認しながら進路指導をすることで、入学後のミスマッチを減少させている。 ・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への付属推薦合学 | B |

| | | |
|-------------------|--|---|
| | 者は約42%となっている。2021年12月現在で、高校3年生在籍436名中187名の日本大学進学が決定している。 | |
| 国公立大学と難関私立大学受験者指導 | <ul style="list-style-type: none"> 本校教員や外部講師による進路講演会（説明会）を通して、進学への意識を高め、長期休暇ではオープンキャンパスへの参加を奨励した。 進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学、難関私立大学の古い赤本を保管、陳列し、書店で購入できないことから高校3年生を中心に利用している。 外部模試受験を奨励し、大学入学共通テストのプレテストを校内で実施するなど、意識を高めた。 150名が大学入学共通テストに出願した。 | B |

保健衛生

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|------------------------|--|------|
| 生徒自身の自己管理の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 体調が悪い場合は登校しない。 担任と連携して教室の衛生状態を確認し、毎日の検温、換気、手洗いうがい、マスクの使用などの徹底をはかった。 | A |
| 海外修学旅行のための麻しん、風しんの予防接種 | 次年度の海外修学旅行が中止となったため未実施。 | — |
| 災害時における緊急対応 | <ul style="list-style-type: none"> AEDの使用方法など、オンデマンド研修を通じて周知した。 防災備蓄品の在庫を管理し、非常時に備えている。 | A |

図書

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|----------|--|------|
| 利用者数を増やす | 放課後平日は18:30まで、土曜日は16:30まで開放し、自習室としてスペースを開放した。その結果自習室としての利用者数が増加している。オンラインで開室日数が減った月を除けば各月1.3倍増加している。 | A |

広報

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|------|----|-----|----|---|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|---|
| 中学校志願者増 | <p>①学校説明会やWebを活用した説明会で本校や日本大学の魅力を伝えた。</p> <p>②志願者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 志願者 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第1回</td> <td>90</td> <td>69</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>122</td> <td>78</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">今年度</td> <td>第1回</td> <td>130</td> <td>76</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>158</td> <td>94</td> <td>252</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>142</td> <td>79</td> <td>221</td> </tr> </tbody> </table> | | | 男子 | 女子 | 計 | 昨年度 | 第1回 | 90 | 69 | 159 | 第2回 | 122 | 78 | 200 | 今年度 | 第1回 | 130 | 76 | 206 | 第2回 | 158 | 94 | 252 | 第3回 | 142 | 79 | 221 | A |
| | | 男子 | 女子 | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨年度 | 第1回 | 90 | 69 | 159 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2回 | 122 | 78 | 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今年度 | 第1回 | 130 | 76 | 206 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2回 | 158 | 94 | 252 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3回 | 142 | 79 | 221 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | <p>・受験者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第1回</td> <td>83</td> <td>67</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>94</td> <td>48</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">今年度</td> <td>第1回</td> <td>123</td> <td>74</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>138</td> <td>81</td> <td>219</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>122</td> <td>74</td> <td>196</td> </tr> </tbody> </table> <p>③昨年度は募集人員が減少した影響で、志願者が大幅に減少した。昨年度の入試結果を見て、倍率が低いため今年度は志願者が大幅に増加した。</p> <p>④2月2日午後には2教科入試を新たに導入し、志願者が順調に集まった。</p> | | | 男子 | 女子 | 計 | 昨年度 | 第1回 | 83 | 67 | 150 | 第2回 | 94 | 48 | 142 | 今年度 | 第1回 | 123 | 74 | 197 | 第2回 | 138 | 81 | 219 | 第3回 | 122 | 74 | 196 | |
|-----------------|--|----------|----------|----------|----------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|--|
| | | 男子 | 女子 | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨年度 | 第1回 | 83 | 67 | 150 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2回 | 94 | 48 | 142 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今年度 | 第1回 | 123 | 74 | 197 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2回 | 138 | 81 | 219 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第3回 | 122 | 74 | 196 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高等学校 入学者の安定化 | <p>①学校説明会や Web を活用した説明会で本校や日本大学の魅力を伝えた。</p> <p>②募集人数を適正化するため、成績基準を見直した。</p> <p>③志願者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>推薦入試</th> <th>一般入試(専願)</th> <th>一般入試(併願)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度</td> <td>153</td> <td>213</td> <td>1176</td> </tr> <tr> <td>今年度</td> <td>188</td> <td>8</td> <td>926</td> </tr> </tbody> </table> <p>④専願と併願の基準を統一した。</p> | | 推薦入試 | 一般入試(専願) | 一般入試(併願) | 昨年度 | 153 | 213 | 1176 | 今年度 | 188 | 8 | 926 | A | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 推薦入試 | 一般入試(専願) | 一般入試(併願) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨年度 | 153 | 213 | 1176 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今年度 | 188 | 8 | 926 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------------|--|---|
| AL/ICT 教育の推進 | 2019年度入学生よりタブレットパソコンの導入を開始。導入学年より順次授業等でのICT教育を推進する。タブレットパソコンを用いて情報収集や意見の集約を行えるようにする。他者の前でプレゼンテーションを行えるにする。 | 2021年度で全学年においてタブレットパソコン導入できた。今後は導入時期を4月固定にできるように検討する。 プロジェクター・スクリーンの設置教室を増やす。 2022年度の研究・公開授業において、ICTを活用した内容を実施。ICT授業の実践例等の研修会も随時案内する。 2022年度より高校1年生に総合的な探究の時間の年間計画に基づいた授業を行い、ICTを用いたプレゼンテーションを行う。学年進行の形でICTを用いたプレゼンテーションを経験していく。 |

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------------|--|---------------------------------------|
| 多様化している生徒の適切な指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、教職員間で多様な生徒の情報共有を合理化する。 ・発達障害・ネグレクトなど、特別に配慮の要する生徒の情報などを教職員間で適切に共有する。 | 通年 |
| 校内美化 | <ul style="list-style-type: none"> ・清掃の際にチェック項目を設定して通常の清掃をきちんと行う。 ・大掃除の際には、さらに細部まで徹底して清掃を実施する。 ・部室に設置した分別用ゴミ箱を活用し、整備委員会及び部活動委員会と協力してゴミの分別を徹底する。 | 通年 大掃除を毎月1回程度実施する。 毎月1回程度 通年 |

課外活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------------------------------|---|---|
| 生徒会行事に対する生徒アンケートを実施する。定期的な打合せを行う。 | 生徒会行事に対する生徒からのアンケートをとる。生徒会担当教員と生徒会役員の連絡、打合せを定期的に行うことで互いの理解を深める。 | 生徒会行事が終了したら、生徒からのアンケートをとり、必要があれば委員会等で次年度に向けての改善策を話し合う。月ごとに生徒会役員と生徒会担当教員で打合せを行う。 |

進路指導

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-------------------|--|--|
| 国公立大学と難関私立大学受験者指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト、個別入試に向けて学力を向上させる。 ・各大学の説明会やオープンキャンパス参加を通して志望校に進学する意識を高め、具体的な志望理由を持てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを実施する。 ・外部模試の受験を奨励する。 ・大学入学共通テストのプレテストを実施する。 ・各大学の説明会を実施する。 ・オープンキャンパスへの参加を奨励する。 |

保健衛生

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|------------------------|--|--|
| 生徒自身の自己管理の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・体調が悪い場合は無理して登校しない。 ・学校全体で予防のための手洗い、マスク着用等を励行し、予防の意識を高める。 | 年間を通じて実施 (特に新型コロナウイルス収束までの間、インフルエンザ流行期) |
| 海外修学旅行のための麻しん、風しんの予防接種 | 高校1年生からワクチン接種回数の調査を行い、回数が不足している生徒に対して個別に呼び掛ける。 | 高校1年生対象(11月調査実施) |

| | | |
|-----------------|--|-------------------------------|
| 災害時における救護ブースの確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に備え，防災訓練時に救護ブースを設置する。 ・備蓄品の在庫を確認する。 | 春・秋季防災訓練時に実施 秋に備蓄品の在庫を確認する |
|-----------------|--|-------------------------------|

図書

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------|--|--|
| 読書の奨励 | <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館だより」の発行，図書館利用状況の報告や新刊図書のお知らせにより図書館利用を更に啓もうしていく。 ・希望図書購入の呼び掛けをしていく（生徒だけでなく教員に対しても行う）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用状況については引き続き職員会議にて報告する。 ・新刊図書のお知らせに関しては方法を委員会で検討させる。 |
| 外部研修会への取組 | 外部研修会へ積極的に参加し，様々な情報を取得し，本校図書館業務に生かしていく。 | 夏季の「日本大学図書館業務研修会」に参加し，他の付属校との情報交換会に参加する。 |

広報

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------------------|---|--|
| 中学校 志願者増 学力層の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本大学の付属であり，大学が総合大学であることを明確に伝え，将来の進路選択の幅が豊富であることを理解してもらう。 ・中学校を卒業した生徒の活躍や大学の合格実績を示し，本校の魅力を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月学校説明会 ・6月文化祭／学校見学会 ・7，8月オープンスクール／校舎内見学ツアー ・10，11月入試説明会 ・3月入試報告会 |
| 高等学校 入学者の安定化 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の取組方策と同様に，総合大学の付属である良さを伝える。 ・進学実績を伝え，進路選択が豊富であることを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・6月文化祭 ・7，8月校舎内見学ツアー ・10，11月入試説明会 |